

第 3 回鳥羽伊良湖航路対策協議会の結果概要

(1) 航路が廃止された場合の影響について

○鳥羽伊良湖航路の現状及び廃止による影響について事務局から報告

【航路の現状について】

- ・平成 21 年度に利用した総旅客は約 35 万人であり、平成 6 年度のピーク時の約 116 万人から約 7 割の減少となっている。方向別にみると、鳥羽から伊良湖への航送が多くなっている。

	鳥羽⇒伊良湖	伊良湖⇒鳥羽	合 計
総旅客	190,909 人	162,012 人	352,921 人

- ・地域別にみると、関東や静岡県からの利用が多く、乗用車、バスともに半数前後を占めている。

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
乗用車	愛知県 (27.0%)	静岡県 (26.7%)	関東 (20.5%)	三重県 (12.9%)	関西 (7.8%)
バス	関東 (41.3%)	静岡県 (12.9%)	愛知県 (10.7%)	インバウンド等 (10.2%)	関西 (8.5%)

※乗用車はナンバー、バスは利用団体の所在地等で集計。

【航路の廃止による影響について】

- ・別紙のとおり。

(2) 航路存続のための対応方策について

- 伊勢湾フェリー株式会社による経営改善策や近鉄・名鉄の意向、国への新たな支援制度の創設提言等について意見交換し、航路存続について検討。
- 愛知県、三重県、田原市、鳥羽市の 2 県 2 市として、今後、伊勢湾フェリー株式会社の株主である近畿日本鉄道株式会社及び名古屋鉄道株式会社に対して、航路存続に向けた要望活動を実施していくことを確認。